

ウィーンの仲間と共に
久富 綏子・石鍋 妙子
《ピアノトリオの午後》



フランツ・ズーゲルト
Franz Siegert, *violin*

ティル・シュスラー
Till Schüßler, *cello*

石鍋 妙子
Taeko Ishinabe, *piano*

久富 綏子
Yasuko Hisatomi, *piano*

■プログラム

カッチーニ (編曲 / ヤン・ヴァルタ) : アヴェ・マリア (Vc)
G. Caccini (Arr. Jan Valta) : Ave Maria

クライスラー : 前奏曲とアレグロ (Vn)
F. Kreisler: Preludium und Allegro

ブラームス : ピアノ三重奏曲 第2番 ハ長調 作品 87
J. Brahms: Klaviertrio Nr.2 C-Dur Op.87 〈Pf : 石鍋〉

シューベルト : ピアノ三重奏曲 第2番 変ホ長調 D929
F. Schubert: Klaviertrio Nr.2 Es-Dur D 929 Op.100 〈Pf : 久富〉

■出演

石鍋 妙子 (ピアノ)
Taeko Ishinabe, *piano*

久富 綏子 (ピアノ)
Yasuko Hisatomi, *piano*

フランツ・ズーゲルト (ヴァイオリン)
Franz Siegert, *violin*

ティル・シュスラー (チェロ)
Till Schüßler, *cello*

2025. 11月15日《土》14:00 開演 (13:30 開場)
Hakuju Hall

全席自由 ¥4,500 ※未就学児の方のご入場はご遠慮ください。

【前売】 チケットぴあ <https://t.pia.jp/> ・ ソレイユ音楽事務所 Web 「チケットの王様」 <https://www.soleilmusic.com>

主催●ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552 後援●オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム東京・月刊「音楽現代」



出演者プロフィール

石鍋妙子 Taeko Ishinabe, piano



武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。モーツァルトウム音楽院国際夏期講習、ワルシャワショパンセミナー、レンク国際夏期音楽アカデミー、ウィーン音楽セミナー受講。A. ヤシンスキ、P.B. スコダ、H.C. ステファンスカ、Y. エキエル各氏等のレッスン受講により研鑽を積む。1982年 NHK-FM「午後のリサイタル」に出演。1989年、93年、99年、2006年、14年、21年にリサイタルを王子ホール、

サントリーホール、Hakuju Hall など東京の他、ルーマニア、日本各地にて開催する。1985年大野和士指揮東京シティフィルハーモニック管弦楽団を始め、2008年までにエネスコ交響楽団（2回）、オラディア交響楽団、バカウフィルハーモニー、ボトシャニ交響楽団、大宮フィルハーモニー管弦楽団と協演する。室内楽においては、2002年～2004年オラディア交響楽団、ヤシ歌劇場管弦楽団、エネスコ交響楽団の各メンバーとブカレストなどルーマニア各地で演奏する。また2003年から東京にて毎年開催している「石鍋妙子コンサートシリーズ」は2024年に20回目を終え、その間、ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団、A. コックス (Pf)、U. ダンホーファー (Vn)、A. スコチッチ (Vc)、F. ズィーゲルト (Vn)、T. シュスラー (Vc)、ヤンネ館野 (Vn) 各氏と定期的に共演を重ね、ウィーンにても度々演奏する。

1983年～2004年東京工学院専門学校音楽芸術科ピアノ科講師。ピアノを久富綏子、澤田紀子、J. ホラーク、C. ジュディチの各氏に、ピアノと室内楽を A. コックス氏に師事。

久富綏子 Yasuko Hisatomi, piano



武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。同大専攻科修了。読売新人演奏会出演。1969年及び1972年、東京文化会館にてのジョイントリサイタルを経て1972年第一生命ホールにて第一回リサイタルを開催。その後1973年から1975年までドイツ・カールスルーエ国立音楽大学へ留学、フランスからの客員教授イヴォンヌ・ロリオ氏に師事。その間1974年モーツァルトウム音楽院国際夏期講習にてハンス・

ライグラフ氏に師事する。1975年南ドイツ放送局での演奏会等を経て演奏家試験に合格卒業し帰国する。1976年9月第一生命ホールにて帰国リサイタル、10月都市センターホールにて室内楽を巖本真理弦楽四重奏団と共演する。その後1978年イイノホール、1991年サントリーホール、1993年と2002年津田ホール、2008年と2016年王子ホールにてリサイタルを開催。その間に1980年小松一彦指揮、新日本フィルハーモニー交響楽団とのピアノ協奏曲の夕べ、1992年及び2006年カザルスホールにて室内楽の夕べに出演。1997年9月にロシア・ウラジオストク音楽院にてリサイタル、2001年にはアゼルバイジャン共和国の首都バクーにてリサイタルを開催する。ウィーンの演奏家達との共演は2018年3月と2019年11月いずれも Hakuju Hall にて、今回は3度目となる。

武蔵野音楽大学名誉教授。土屋富美子、坂田真理子、福井直俊、イヴォンヌ・ロリオ、徳川愛子、G. ヴァン・ハーリの諸氏に師事。

フランツ・ズィーゲルト Franz Siegert, violin



1981年ドレスデン生まれ。2009年よりウィーン放送交響楽団のコンサートマスターを務める。

16歳よりトロツィンゲン音楽大学の高才能クラスでルドルフ・ランプ教授に師事、その後ウィーン国立音楽大学でクリスティアン・アルテンブルガー教授に師事、2009年最高位の賞を得て卒業する。在学中からグスタフ・

マーラー青少年管弦楽団のコンサートマスターを務め、2007年にはヨーロッパ文化財団賞を受賞する。またバイエルン国立歌劇場、バイエルン国立管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団（ロンドン）、ウィーン室内管弦楽団、グルベンキアン管弦楽団（リスボン）、バスク国立管弦楽団（サン・セバスチャン）のゲストコンサートマスターとして招かれる。名指揮者クラウディオ・アバドの招待で、ボローニャのモーツァルト管弦楽団にも在籍。

ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団の第1ヴァイオリン奏者として度々来日。2018カルクリーナ・ピアノトリオのメンバーとしてアメリカツアーを行う。2018年よりリンツのブルックナー管弦楽団のゲストコンサートマスターにも就任。

ティル・シュスラー Till Schüßler, cello



シュトゥットガルトに生まれる。8歳で兄妹とのピアノトリオをはじめ、公の演奏活動を行う。

ケルン国立音楽大学にてクルト・ヘルツブルッフ、ウィーン国立音楽大学にてバレンティン・エルベンの両教授に師事。その間、アマデウス弦楽四重奏団、アルバン・ベルク弦楽四重奏団にも師事。

1989年ハーグ国際音楽コンクールなど数々のコンクールで受賞。

ウィーン室内管弦楽団首席チェロ奏者を経て、現在ウィーン放送交響楽団奏者。また室内楽奏者としてもウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団奏者として度々来日する他、多種の編成でヨーロッパ、アジアの各地で活躍。

演奏の傍らウィーン・プライナー音楽院の教授を経て、夏期講習、マスタークラスなどで後進の指導に当たる。

演奏楽器：ベルナルデル

Hakuju Hall ご案内

渋谷区富ヶ谷 1-37-5 (株)白寿生科学研究所本社ビル

Phone 03-5478-8867

千代田線「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」より徒歩5分

